

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 2 6 年度 新座市子どもの放課後居場所づくり事業 運営委員会（第 3 回）
開 催 日 時	平成 2 7 年 3 月 1 7 日（火） 午前 1 0 時から正午まで
開 催 場 所	新座市役所第三庁舎 2 階会議室
出 席 者	金子 廣志 宮川 みさ子 菅原 久美子 高橋 靖子 須田 邦彦 荒井 マサ子 石原 志穂 弘中 幸伸 中島 栄 土屋 賢治 磯貝 幸子 山中 一英 小山 忠彦 小松 敏彦 伊藤 進 山口 聡 三上 文子 大熊 正 計 1 8 名
事 務 局 職 員	生涯学習スポーツ課 谷口副課長、富樫主査、藤田主事、天倉主事
会 議 内 容	1 開会 2 挨拶 3 議事 (1) 事業報告について (2) 新年度事業計画について (3) その他 4 閉会
会 議 資 料	・ 次第資料 ・ 委員名簿
そ の 他 の 事 項	特になし

審 議 の 内 容 (審議経過、結論等)

1 開会 (藤田主事)

2 挨拶 (金子委員長)

3 議事 (進行：金子委員長 説明：富樫主査)

(1) 事業報告について

ア 各ココフレンドの活動状況

【東野ココフレンド：磯貝コーディネーター】

- ・活動時間が短くなる1月末まで、参加者は20名前後と少なかったが、2月からは30名前後に増えた。
- ・異学年同士でも仲良く遊んでいる。
- ・東北ココフレンドと野寺ココフレンドに見学に行った。各ココフレンドの特色を参考にしていきたい。
- ・校長先生や教頭先生の御協力がとてもありがたい。
- ・中には、子どもへの接し方を見直したほうがよいスタッフもいる。スタッフの気を引き締めるため、年に1回は全員でミーティングを行っている。
- ・スタッフは12名いるが、常に活動しているのは9名程度である。1日5名は必要だが、3名しかいない日もあった。
- ・新しく、2名の方がスタッフに登録してくれた。

【東北ココフレンド：土屋コーディネーター】

- ・大まかには、東野ココフレンドと同じような状況である。
- ・必ず宿題をやるよう指導しているため、保護者から感謝の言葉をいただくことがある。
- ・来年度に、特別活動を実施しようと思っている。授業が早く終わる月曜日に実施し、3回を1セットとして行う。2、3月で試験的に実施した。1人100円を集金し、スタッフの協力を得ながら、ゾウキリンのマスコットやコマなど、工作を行った。60名程度の申込があり盛況だったが、事前準備等スタッフへの負担が大きいため、今後はボランティアバンクを活用していこうと考えている。
- ・遊び始めると、子どもを注意しなくてはならない場面があるが、どこまで注意すればよいのか迷うことがある。ココフレンドはあくまでも子どもの自主性を尊重する場所なので、自由と規律の境目が難しい。

【野寺ココフレンド：萩原コーディネーター (富樫主査代読)】

- ・秋冬は、参加者が少ない。
- ・女子児童の参加が多く、クラフトなどクラブ活動のようなイベントを行いたい。
- ・ココフレンドに来たくても、友だちがいないから来られないという子どもがいる。一人で遊んでいる子がいれば、皆の遊びに混ざるよう促すようにはしている。
- ・ココフレンドのポスターのようなものがあれば、もっとココフレンドを多くの方に知ってもらえると思う。
- ・ココフレンド関係の研修会があれば、参加したい。

【石神ココフレンド：中野コーディネーター（富樫主査代読）】

- ・月に1回程度絵本の読み聞かせを、また長期休業中には太鼓、紙飛行機、ダンス教室等を実施した。
- ・イベント時には、いつもの2倍の参加がある。
- ・常時使える教室がなく、毎日学校に確認して、使用許可があった教室で活動している。
- ・学年や性別に関係なく、皆仲良く遊んでいる。
- ・3分の1の保護者がお迎えにくる。2、3名が、活動終了後学童に行く。

【新堀ココフレンド：高野コーディネーター（富樫主査代読）】

- ・児童や保護者の都合により参加する児童が多く、有効活用されていると思う。
- ・継続的に参加する児童と時々参加する児童がいるが、両者には遊び方に差がある。
- ・教職員の理解がある。
- ・スタッフは、教師や親とは違った立場で接することができていると思う。
- ・事故や大きなけがはなく、小さなけががあったときは応急処置や保護者への連絡など、スタッフによる初期対応がきちんとできた。

【四小ココフレンド：前川コーディネーター（富樫主査代読）】

- ・開室当初はバタバタしていたが、今はスタッフと児童の仲も良く落ち着いて活動できている。
- ・スタッフは地域の男性が多く、いろいろと教えてくれている。
- ・8割強の保護者がお迎えに来る。顔を見ながら子どもの様子を伝えることができる。

委員長 研修会に参加したいとの要望があったが、事務局では何か検討しているか。

事務局 年に2回スタッフ研修会を実施している。来年度は4月14日（火）に第1回目を、5月中旬に第2回目を予定している。

委員長 他に要望があれば、事務局に相談してほしい。遊び道具の予算はとってあるのか。

事務局 としている。現在は、オセロ、ジェンガなどの遊び道具を用意している。

委員長 石神ココフレンドには、常時使える教室がないのか。

事務局 PTA 会議室の半分を間借りしてスタッフルームとしている。児童の活動

に

はなかよしホールを使用しているが、この教室は使い勝手が良く、学校でも使用するため、その場合はココフレンドが別の教室を使っている。

委員長 石神小学校には大きな和室があると思うが、そちらは使用できないのか。

事務局 ななかよしホールが使用できないときは和室を使っているが、畳なので使い勝手が悪い。

イ 新座市子どもの放課後居場所づくり事業報告

資料7・8ページのとおり報告した。

なお、次のとおり資料の修正があった。

<11ページ 質問9について>

誤「長期休業中に開設されたら参加しますか。」

正「長期休業中の午後に開設されたら参加しますか。」

ウ アンケートの分析及び今後の課題

資料 9 ～ 11 ページに基づき説明した。

委員長 毎日来る児童もいるが、月に 1 回、もしくは数回参加するという児童が多い。毎日参加する児童の保護者は、開室時間が短いと感じているのではないかと。ただ全体でみれば、現状に満足している保護者が多い。「安心・安全な居場所づくり」というココフレンドの目的に沿った運営ができていると思う。放課後児童保育室（以下、学童という。）の代替とはっていないことが読み取れる。

委員 毎日来る児童は少ない。ココフレンドは、各家庭や児童の都合に合わせて利用していただいていると思う。質問 9（資料 11 ページ）を見ると、長期休業中の午後の開設のニーズは高いと思う。学童は、夏休みには 5・6 年生も受け入れている。四小ココフレンドは、8 割強の保護者が迎えに来るようだが、他のココフレンドでのお迎えはもっと少ない。ココフレンドの開室時間を延長してほしいとの意見もあるが、例えば午後 6 時までに延長した場合、どのくらいの保護者がお迎えに来られるかは分からない。今後、さらに分析していきたい。

委員 平成 27 年度に、東北ココフレンドにおいて、夏休みの午後の開設を試験的に行う予定であったが、諸般の事情により見送ることになった。東北ココフレンドでは、1 割の保護者しか迎えに来ない。迎えに来ることができないからココフレンドには参加できないと思っている方もいるようだ。

委員長 学童は延長した場合午後 7 時まで預かっていると思うが、お迎えの状況はどうか。

委員 学童も基本はお迎えということになっているが、お迎えが難しい場合は集団で下校させている。

委員 東北小学校の学童では、保育時間を延長している児童が多く、大体の保護者がお迎えに来る。

委員長 お迎えの状況は、地域差があるようだ。第四小学校は学区が広く狭い道路があるのでお迎えが多いのではないかと。ココフレンドは学童の代わりとしての役割は果たしておらず、保護者のニーズに合っていない。特に夏休みについてそう思うが、現在の体制では難しいのではないかと。

委員 そのとおりである。平成 27 年度に試験的に開設しようと検討した際も、スタッフの体制をどうするかが課題であった。現在、各ココフレンドに 2 名のコーディネーターがいるが、午後でも開設するのであれば 1 名増員してほしいという要望もあったし、スタッフはどのようなローテーションにするか、という問題もあった。また、スタッフは有償ボランティアであり、1 回につき 2,400 円の謝礼を支払っているが、1 日となれば金額や雇用についても検討しなくてはならない。市内の大学生に協力をお願いすることも検討していた。

委員長 ボランティアは短時間であることが基本だと思うので、スタッフの処遇について検討していかななくてはならない。

(2) 新年度事業計画について

ア 新座市子どもの放課後居場所づくり事業計画

資料 12 ～ 19 ページに基づき説明した。

- ・ 一部について、次のとおり日にちが決定している。

4 月 14 日（火）スタッフ研修会

5月12日（火）第1回運営委員会

イ 新規開設校進捗状況及び予定

資料20～22ページを基に説明した。

- ・ 前回の運営委員会では、新規開設校として全3校を提案したが、都合により持ち帰りとした。その後、栗原小学校を新規開設校とすることになった。
- ・ 第2図書室をスタッフルームにする予定である。
- ・ 栗原小学校の学童は定員が少なく、狭隘化している。

ウ 運営委員会今後のスケジュール

資料22ページのとおり説明した。

委員長 保険について、手続きは簡略化されるようだが、補償内容に大きな変更はないのか。

事務局 通院1日につき支払われる額が1,500円から1,000円になるが、その他はさほど変わらない。

委員長 新座市は子ども医療費が利用でき、市が全額負担していると思うが。

事務局 子ども医療費との併用ができる保険なので、申請すればお見舞金のようなものとして受け取ることができる。

委員長 死亡した場合の保険金が低いようだが、この保険で良いのか。

事務局 ココフレンドのような事業では死亡例がほぼないことから、この保険の補償内容でも十分であると考えている。

委員長 栗原小学校の進捗状況はどうか。

委員 私は直接関わっているわけではないが、実行委員は決まってきているようである。

委員長 例年5月下旬に開室しているが、もう少し早めることはできないのか。

事務局 事業を開始した平成24年度は6月下旬に開室しており、平成25年度以降は5月下旬に開室している。4月上旬から本格的な準備を始めるが、申込み等の都合がありこれ以上開室を早めることは難しいと思う。

委員長 確かに工事などは4月にならないとできないと思うが、できれば5月の連休明けくらいから開室できると良い。

事務局 次年度以降の課題とさせていただく。

(3) その他

委員 新1年生は5月からココフレンドに参加できるかと思うが、それまで保育園に行っていた子どもについては、入学してから5月までどう過ごすのか。

委員 学童は4月1日から利用できる。保育園は卒園式が終わっても必要であれば預けることができるので、預ける場所がない期間ができないようにサービスを提供している。

委員長 ココフレンドは、常時預けたいという保護者のニーズに応えることができていない。

委員 スタッフの体制の問題は理解できるが、なんとか開室時間を延長できないのか。

委員長 現状では、保護者が常勤の場合は学童に登録していただくしかないが、パートなどをされている場合はココフレンドで対応可能だと思う。

委員 ココフレンド開始当初、学童は1年生から4年生までが利用できた。中

学年にもなれば、学童に登録せずにココフレンドを利用するのではないかと予想していたが、現在でも学童とココフレンドにダブル登録をしている児童も、学童をやめてココフレンドに登録する児童も少ない。ココフレンドの開室時間を延長しない限り学童の大規模化は解消されないが、1時間延長したとしても学童の登録が減らない可能性もある。ただ、新堀小学校の学童では、目に見えて登録者数が減っている。

委員 平成27年度は26年度に比べ、学童の登録者数は増えているにも関わらず、新堀の学童は登録者数が減っている。東野小と石神小は児童が減っているのに、学童の登録者数は増えている。

委員 5時過ぎに帰る子どもが心配である。下校時の責任の所在や保険の補償はどうなっているか。

事務局 ココフレンドに来てしまえば学校管理下から外れる。下校時も、ココフレンドでかけている保険の対象となる。

委員 下校については心配である。昨日も不審者情報があつた。

委員 東野ココフレンドは、スタッフが児童を途中まで送るが、途中から一人になるのが怖いのか、友だちと一緒に別の道から帰ろうとする児童がいた。同じようなことが数回あつたので、保護者にお迎えにくるようお願いしたが、毎日来るのは難しいようである。

委員長 それぞれのココフレンドで工夫しながら対応してほしい。

委員 時々ココフレンドを見に行き、少しの時間ではあるが、子どもと遊ぶことがある。野寺ココフレンドは、スタッフルーム以外にも使える教室が数か所あり、体育館にも校庭にも行きやすく、恵まれた環境にあると思う。懇談会の際などは参加者が増えるが、今後も協力していきたい。下校時の問題は対応が難しい。保護者も心配なのか、学童に登録している子の中で、知らぬ間に携帯電話を持っている子がいた。一部の通学路には暗い道もあるので、下校時のルートだけでも変更できないかと検討しているところである。

委員 アンケートを見ると、ココフレンド事業がプラスになっているようである。特別活動やイベントなど、子どもが楽しく参加できるように様々な工夫をしていただいていることが分かった。新座小学校でも、下校には特別気を配っている。子どもを遅くまで残さなければならないときは、家まで送ったり、保護者に迎えに来てもらったりしている。保護者の都合ばかりを気にするのではなく、事務局やコーディネーターからもお迎えに来るよう、あと一歩踏み込んだ声掛けをしてほしい。

委員長 事故が起きてからは遅いので、そのようなことがないように、事前にできることはしておかなくてはならない。女性の社会参画が叫ばれている中で、放課後の子どもの居場所へのニーズは高まっていく。いずれ学童だけでは対応しきれなくなるので、ココフレンドも子どもを「預かる」という観点での展開を検討していく。